

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ファミリーハウス美原
（ユニット名）	1F
所在地 （県・市町村名）	大阪府堺市美原区平尾1848-1
記入者名 （管理者）	福添 敏子
記入日	平成 20年 3月 26日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの「一日のスタートは明るい笑顔の挨拶から」と笑顔の絶えない生活を理念にしておりましたが「ゆったり」「ワイワイ」「ほかほか」とのんびりおしゃべりしながら心暖かで住み慣れた地域で安心して生活できる、「くつろぎと微笑みの家へ」を理念としました。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域の中で安心して生活できる事の大切さを職員が理解して実践できるように努めている。 地域に愛されるホームを目指しています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	民生委員さんが運営推進会議のメンバーであり、老人会とのパイプ役となって頂け昨年のご利用者の作られたティッシュケースをプレゼントして喜んで頂きました。 地域の中で生活する事を少しずつですが理解していただけています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	常日頃から、挨拶を交わすようにしている。 たくさんの収穫された野菜を頂く事もあり、屋外で行うバーベキュー大会にはご近所の方をお誘いする事もあります。 自然なご近所付き合いが出来つつあります。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で開催されるお祭や催しには極力参加しています。 子供見守り隊にも協力しており、体験学習で小・中学校の生徒さんの受け入れもしています。 運動会や文化祭に招待を受けています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年公民館で開催しました作品展では介護相談コーナーを作り相談を受け付けました。 ホームでも随時相談に対応できる体制があります。		
2. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で自分達も気づかない良い所や悪い所が指摘して頂け、ご利用者・ご家族に安心していただけるホーム作りの参考になります。指摘事項は全体会議で話し合い具体案の検討や改善の努力をして家族会・運営推進会議で報告しております。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月のサービス内容を報告させていただき、取り組み等へのご協力も御願ひしています。 他施設の情報も聞く事が出来ますので、サービスの参考にさせて頂いております。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と連携が出来ているとまではいきませんが昨年より、新たに取組んだ、ご利用者による作品展の開催につきましては相談に乗って頂いたりしました。 包括支援センターにご利用者と作りました 「ティッシュ君」を持参して活動内容を理解して頂く努力はしています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	十分理解ができていなかったので勉強したいと考えていましたが、先日研修のお話がありました時、他の研修と重なり参加できませんでした。 新たに必要とされる立場のご利用者は今の所ありません。	○	成年後見制度を利用されている方もいらっしゃいますので制度についての勉強をしていきたいと考えています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	以前、ご自宅で虐待があったと言う事例はありました。 認知症の方をお世話する上でご家族・職員が気づかない内に言葉による暴力がないか、言葉には十分注意を払うように常日頃から努めています。 不適切な言い方があれば職員間で注意し合っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を使い説明して、納得して頂けていると思います。 要介護度⑤になり重度化されると見てもらえないと誤解され、いつまで見てもらえるかとの不安を良く耳にしますが、現在要介護度⑤の方も入所されています。解約後も同法人に老健・特養があり対応できる体制がある事も理解して頂いています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱や「苦情申出窓口」を設置しており、20年度は介護相談員の受け入れ申請も致しました。	○	介護相談員を受け入れてご利用者の意見が積極的に反映できる様に努める。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月末に来月の行事予定表の連絡欄に最近の生活状況や健康状態をお知らせしております。 又 随時、FAXや電話で報告させていただく事もあります。 体調面での報告は特に蜜にしております。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見や苦情については早急に対応し苦情につきまちは、当事者に直接、改善内容を報告しています。 家族会や運営推進会議の議事録は各フロアーに自由に見て頂ける様に設置しており遠慮のない何でも話し合える雰囲気づくりに努めています。	○	家族会に参加していただける、ご家族の意見や苦情等をお聞きする機会がありますが、中々参加いただけないご家族の声が反映されていませので外部評価のご家族のアンケートの結果が参考になります。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長・管理者は職員の意見を聞くように努めているが言いにくい事もあるので各フロアーにフロアーリーダーを置き職員の意見や要望が反映できる体制を作っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	食事作り専門の短時間の職員を配置するなどして慣れた職員をフリーにして柔軟に対応できるようにしている。 管理者も通常の業務には入らず自由に動ける体制にあるので利用者の状況に応じて対応出来ている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員入れ替わりは家族会で報告したり、担当が変更になる場合は、行事予定表の連絡欄でお知らせしています。 新しい職員の紹介時には、ご利用の方が先輩ですので教えてあげてくださいと御願いして双方が早く馴染んでもらえるように工夫しています。 基本的には各ユニットの職員を固定化し顔なじみの職員によるケアを心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で18年度は管理者研修、19年度は中堅者研修を実施中です。 月1回の全体会議の中で研修報告をしています。 正職・パートに関係なく研修に参加できるように努めています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区のグループホーム間の交流会に参加していましたが、美原区は美原で立ち上げてはと言う意見があり検討中です。	○	美原区にある三つのグループホームで親睦をはかる計画中です。 行事へのご招待を予定中です。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	他施設と交流できるように親睦会や忘年会があり気分転換の場をつくっている。 他のグループホームと運営推進会議にお互い参加する事で情報交換に努めています。	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	理事長は時間が許す限り会議に参加され職員の努力を評価してもらっている。 各種の資格修得には協力的で勤務調整もしてもらえる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	共同生活や家族と離れての生活に不安を持たれていますので、安心して生活できる所であり、ご家族も自由に面会ができる信頼関係が築けるように笑顔で対応しています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	皆さん早急に入所できる所を探されていますが、何処でもいいという訳にはいかないので状態を詳しくお聴きして、緊急性がある場合は同法人の別施設で受け入れ出来ないか問い合わせして対応出来るか検討するなどお力になれる様に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ他のグループホームやデイサービス・居宅介護支援センター・包括支援センター等の紹介をしています。。	○	美原区にはグループホームは三施設ありますので、急ぎの問い合わせにはお互いに紹介できる関係作りを築いて行き、情報交換もできるようにしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	行事等にはご近所の方や老人会に働きかけていますが中々参加にはつながっていません。施設見学を行事をしている時間に合わせて来て頂き一緒に楽しんでいただく事で自然に仲良くお話が出来る様に工夫しています。	○	納得されて入所される方ばかりではありませんので、馴染まれるのに時間がかかる方もあります。入所が近くなると遊びに来て頂いたり職員とも馴染みの関係ができる様に工夫してみます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員は料理の味見をしてもらったり、お裁縫が苦手な職員はボタンをつけてもらったり意図的に働きかけて助け合う関係を作っています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	自分の居場所があり楽しく生活できて、ご家族にも安心して頂ける様に面会時には近況を報告させて頂き、以前より表情が明るくなったと言って下さるご家族もいらっしゃいます。少人数制ですのでご家族とも親しくお話ができ信頼関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事への参加をご家族に呼びかけて、クリスマス会や日帰りバス旅行には毎年多くのご家族の参加があります。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所のスーパーや地区の催しに参加できる機会を作っています。去年は三中フェスタ(近隣の中学校3校で開催された催し)に参加できました。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	耳の遠い方が集団の中で孤立されないように職員が意図的に介入して話の内容を伝えるなどの配慮をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所理由の一番は怪我や病気で急変されて入院されるケースが多く、入院中も今後の事については事前にお話をして必要ならば老健施設と連携して退院後の生活の相談に乗れる体制があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	明確に希望や意向をはっきり言葉に出来る方が少ないですが、表情等で無理強いのないように努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からも折りにつけ、ご家族のお話やお若かった時の話を聞いて把握に努めています。又、ご家族からも面会時や家族会等でどのように生活されていたかを少しずつ、お聴きして把握に努めています。入所時には個人記録として生活歴や性格・趣味等の情報を事前に得ています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	古くからのご利用者は生活リズムを理解出来ていますが、新しく入所された方については体調の変化等を観察して記録に残す事で職員全員が把握出来る様に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	中々多くの職員が集まる事が出来ないので担当がご家族・ご利用者・他の職員から情報を収集して作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した介護プランが現状にそぐわなくなり実行困難な事態や変化が生じた場合は直ちに見直しをかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に日々の様子を記録している。勤務開始前には申し送りを行い情報を共有できている。ケアプランの実行・評価も実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院中の空き部屋を利用したショートステイ実施について家族会や運営推進会議で話し合いの場を設けている。	○	ショートステイは現在検討中である。
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察署にはグループホームを理解して頂ける様に訪問しています。公民館で昨年は作品展を開催して、近隣の方にも見に来ていただきました。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の整形外科より鍼灸師の先生に週一回のリハビリ体操を御願ひしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在はあまり出来ていないが運営推進会議で堺市福祉サービス公社の方と面識ができましたので少しずつ協働できるように取り組んでいく。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、往診可能な主治医への変更をお願いしていますが、家族の希望される、かかりつけ医の受診を継続される時は家族の通院介助を御願ひしています。緊急を要する時は職員による通院介助をしております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医ではないが老人医療の経験があり認知症の利用者に熱心に対応していただける。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの連携は出来ていないが、主治医が夜間でも可能な限り往診してもらえる体制がある。 看護師への相談は可能。	○	医療連携は現在、検討中。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	30日以上入院が見込まれる場合はいったん退所して頂く事になりますが、お元気になられましたら再度受け入れや同法人の老健施設を紹介してスムーズな退院支援を心がけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時の対応として希望のご家族には主治医と直接お話が出来る時間を作り、ご家族の意向を確認している。 施設の方針としては重度化されてもお世話が可能であれば要介護度に関係なく支援できますが、場合に依り利用者の不利益になる時はお世話の限界をお話して今後の方針を話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化された場合にはグループホームでのお世話には限界があるため、主治医に相談すると共に、ご家族と相談して特養の入所も含め検討している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に施設見学に来ていただいて、利用者を紹介したりお茶を一緒に飲んでもらったりして安心して頂く。 ご家族には事前に情報を聞いたりケアの希望等や生い立ちを記入してもらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	面会時にはキーパーソンの家族又は同等の方のみに日々の状態を報告しています。職員は守秘義務について認識しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	決定権はご利用者にある事を常に意識して、小さな事でも利用者に決めてもらう場面を意図的に作っている。例えばサラダにドレッシングをかけるかマヨネーズをかけるか等。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には食事や入浴時間は決まっていますが、前夜不眠であったり体調が悪い時は柔軟に対応しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理髪と移動美容室がありパーマや毛染めも可能です。又、ご家族が外の美容室にお連れする事もできます。入所時に意向を確認して、当日ご本人にどうされるか希望を聞いています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	大根をおろしてもらったり、皮むきをしてもらったり、食事作りがお好きな方にはお手伝いをお願いしています。職員も一緒に食事をします又、食事時にご家族の面会があれば一緒に食事をしていただく事も良くあります。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒や煙草は入所前にご利用者・ご家族と相談して楽しんで頂ける様に支援しています。10時にはコーヒー・紅茶・ココア・レモネード等から選んで頂いています。現在1名の方がビールを飲まれています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握して時間を決めて誘導や声掛けをする事でトイレでの排泄を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を希望される方には、出きるだけ希望に添い入浴していただいています。 夜間入浴も実施しております。 音楽や入浴剤も使用して、気持ちよく入浴して頂けリラックス出来る様に支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後は、居室で横になられる時間を作っています。 ベッドで横になりテレビを観られたりお昼寝をされる方があります。 夜間徘徊される方は温かい飲み物を用意したりして落ち着かれる様に配慮しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	誕生会やボランティアさん来訪時以外はレクの時間と言う概念を取り払い時間に関係なく手芸をしたい方は何時でも貼り絵や刺し子を楽しまれています。 同じフロアで食事の盛り付けをされている方もいらっしゃいます。	○	ご自分から希望をいえない方や自発動作が少ない方がテレビの前で孤立されないような配慮を心がける。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で管理されている方は3名いらっしゃいます。 他の方でも外出時には預かり金を希望者にはお渡ししています。 施設のお買い物に行って頂いた時は、財布を預け支払いをして頂きます。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	他施設に比べ比較的、屋外に出かける事や外で食事する機会が多いと思います。 気候が良くなれば屋外でバーベキュー大会や焼き芋大会と食事をする機会を多く取っています。 行きたい方はお買い物にも一緒に出かけます。	○	体力的に無理な方は、外出が施設周りでの外気浴や日光浴と限られてきますが車椅子で外出したい希望があれば機会を多く取れる様に検討する。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お誕生日のプレゼントとして、行って見たい所や食べたい物の希望をお聞きして職員又は家族と出かけています。 以前住まわれていた所に行きたいと言われた方やお墓参りされた方もいらっしゃいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内には公衆電話が設置されているので電話は自由に使用できますが、最近は電話できるご利用者が少なくなりました。手紙のやり取りについてご利用者からの訴えはありませんが暑中見舞いや年賀状の作成の機会を設けている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族だけでなく、ご近所のお友達の方にも気軽に訪問して頂けるように面会時間等の決まりもありません。お客様には利用者にお茶を持っ行って頂く様にしています。お客様も他の利用者とも自然に会話され、喜んで下さる方が多いです。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が必要な時は家族と主治医の承諾を得ています。身体拘束委員会もあり、拘束のないケアに取り組んでいる。現在、拘束対象者はいません。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は24時間職員がかかる事はありませんが玄関の鍵については中から外へ出る場合はタッチキーになっています。フロアーの鍵は家族会でも話し合い出来る範囲内での開錠で対応しています。	○	弊害についても理解はしていますが現実、皆さんが自由に出入りされれば対応できません。出来るだけ外に行ける時間を作ったり手のすいている職員が臨機応変に対応はしております。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロアーには職員がいてさり気なく見守りをしています。少し離れた所も窓越しに見守りをしたりしています。夜間、転倒の危険性のある方はセンサーマットを使用して、起きられた時に直ぐ対応出来るようにしている又、ソファで待機して一時間に一回は巡回をして見守りをしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	夜勤帯では包丁は施錠できる所に保管管理している。	○	保管管理が必要な物・注意が必要な物を検討して、一律排除にならない様に話しあう。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録して改善策を検討している。事故発生時には家族へ事故説明と報告・主治医に連絡をすると共に事故報告書を作成して各市町村へ報告をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て心肺蘇生術の研修に参加して、その後施設内勉強会も実施して全ての職員が対応可能にしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回利用者とともに避難訓練を実施しています。施設内にも消火器を設置してあり使用方法も定期的に消防署立会いのもと訓練をしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	以前は開錠していた事がありますが今現在はフローと玄関の間は、暗証番号で施錠しています。玄関はタッチキーになっていますが抑圧感はない様に配慮はしています。	○	現実として開錠する事により出て行こうとされる度に職員が手を取られるので他の利用者が落ち着きをなくされ、その対応に職員も振りまわされてしまい家族の反対もあり施錠しています。気候が良くなり屋外で過ごす事が多い時は時間を決めて開錠して自由に出入りできる様にはなっています。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変に気付いた時は、バイタルチェックを行い場合により直ぐに管理者に報告すると共に主治医に連絡をとり指示を仰ぎ、職員間の連絡・申し送りも確実にしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については目的や副作用についての注意書があり、変更があればその都度注意書を付けてもらっているの確認できている。服薬については見守りや手渡し等、確実に吞みこまれるまで確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ヨーグルト等の乳製品を採り入れたり、いつでもお茶が飲めるようにテーブルに設置して便秘の予防に努めている。又、朝礼時ラジオ体操をして体を動かし自然排便できるように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けや見守りの徹底はされている。週1回は歯科の往診があり口腔内の衛生にも注意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養と同じメニューで作っていますのバランス的には問題ありません。 咀嚼能力や血糖値の関係で刻み食やカロリーOFFの食材を使用して対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年インフルエンザの予防接種は利用者・職員共に受けています。施設に風邪等の菌を持ち込まない様に玄関前には手指用の消毒液やマスク・うがい薬を用意しています。	○	ノロ対策として施設内だけでなく、外出時や外泊時にもご家族に注意を呼びかけ協力頂いている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を選び残った食品は即処分しています。賞味期限には特に注意しています。	○	最近是中国産や冷凍食品の購入は控えるようにしていますが全ての食材を国産・冷凍食品を使わないで作るのは手間がかかり過ぎたり、費用面や数を揃えるのが困難である。しかし、食の安全を重視して出来るだけ安全な食材選びを心がけている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には陶芸レクで作ったプレートや利用者と植えたプランターを並べ来所される方を優しくお迎えしています。 玄関内には、利用者が作られた手芸作品を飾り季節感を出しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花がお好きな方が多いので花を生けたり、12月には餅つき3月にはお雛様を飾ってお祝いしたり、ご家族より最近「家でもそこまでしないよ」と言われていました。出来るだけ季節季節の催しがあれば意識的に取り入れています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーから少し離れた所に椅子を設置して、仲の良い方とお話したり、独りになれる空間がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物を持ち込んで頂く様に説明をしていますが、個人差があります。仏壇やタンスを持ち込まれている方もいらっしゃいますが物があると落ち着きをなくされる方もいらっしゃいます。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計や湿度計設置して、温度調整をこまめにしている。風邪予防の為、居室に濡れたタオルをかけて乾燥に注意した。時間を決めて空気の入れ替えもしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物干しの高さを利用者の手の届く高さに調整したり、場合に依ってはベッドから畳対応にして転落されないように注意している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	歩行器や手押し車を使用されている方の行動時は、扉を事前に開けておくとか歩行器や手押し車の向きを換えてスムーズに歩行できる様にしている。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候の良い時期は、玄関周りに日向ぼっこが出来るように椅子やテーブルが設置されている。	○	園芸レクの時間を設け利用者と花壇に花を植えたりしている。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)